

平成25年度 事業報告

自 平成25年 4月 1日
至 平成26年 3月31日

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

東京都三鷹市新川5 - 14 - 16

公益目的事業の実施状況

1 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

(1) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する蔵書収集及び閲覧・貸出し

蔵書収集

書籍 89 点を購入。このほか個人や団体からの寄贈を受け付けた。

閲覧・貸出し

平成 25 年度前半期は前年度同様、新社屋建設工事により閲覧・貸出しなどの対外的な図書館業務は休止し、蔵書の登録作業や図書館調査協力者の募集（33 名登録）など、秋のリニューアルオープンに向けた準備作業を行った。

平成 25 年 8 月下旬に新社屋建物が完成、直ちに蔵書の搬入・配架を行った。旧図書館は閉架式であったが、新図書館では一部を開架式とした。開架書架には和書を中心に約 5000 点を配架、集密書架にはおもに原書約 11000 点を配架した。郭沫若文庫やチベット大蔵経などの貴重書籍や考古資料は貴重書架に所蔵した。蔵書配架後は、開館に向けて開館日時の設定や人員配置、利用案内の作成などの準備を行った。

これら準備作業を経た後、当初の予定通り平成 25 年 11 月 24 日から新図書館としての業務を開始した。新たな開館日時ならびに再開日から平成 26 年 3 月末までの利用者数・利用申込者数・貸出し実績は以下の通り。

<開館日時>

火・水・金曜日 12:00～17:00（第 3 水曜日は休館）

土・日曜日 09:30～17:00

<利用状況>

利用者数 305 人、利用登録者数 76 人、貸出し冊数 92 点

(2) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する文化講座の開催

平成 25 年度は実績なし。

(3) アジア・アフリカ世界の言語・文化・社会に関する調査・翻訳の受託

法人や個人からの依頼を受けて年間 23 件の翻訳案件を処理した。

(4) その他（三鷹市立図書館との協働事業関連）

新社屋 1 階に開館した「三鷹市立南部図書館みんなみ」（以下、南部図書館という。）との協働事業として、以下のことに協力した。

南部図書館内に設けられた展示コーナーで行う郭沫若関連の企画展示に対して、郭沫若文庫の所蔵品を無償で貸し出した。

南部図書館主催の同図書館オープニングイベントにおいて、当図書館の西江館長が「世界とことば～多様性と共通性をめぐって」と題して講演を行った。

- ・ 本講演会の会場として新社屋 3 階の 3 教室を提供した。

- ・ 同イベントは平成 26 年 3 月末までに計 5 回開催され、会場としていずれの回も新社屋 3 階の教室を提供した。

中国語や韓国語で書かれたアジアの絵本の読み聞かせの会において、専門学校アジア・アフリカ語学院在籍の留学生が母語で絵本を読むボランティア活動を行った。

2 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

(1) 日本語ならびにアジア・アフリカの言語・文化・社会に関する教育

ア 学校教育法第 124 条に基づく専修学校専門課程の教育

日本語学科は平成 25 年度より年間の授業週数を 40 週とし、10 週を 1 履修期間とする年 4 期制のコーススケジュールに改めた。これに合わせて単位制も導入、卒業要件を履修単位数に改めた。また、東南アジアなど非漢字圏からの学生受入れを前提とした 2 年コースの新設を検討、1 年と 1.5 年の 2 コース体制に 2 年コースを加えた 3 コース体制とする学則変更を行った（平成 26 年 4 月 1 日施行）。平成 25 年度の日本語学科各コースの開講実績は以下の通り。

〈開講コースと入学・在籍者数〉 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く
 平成 24 年 10 月入学 進学 1.5 年コース(49 期) 在籍者数 12 名(平成 25 年 4 月時点)
 平成 25 年 4 月入学 進学 1 年コース(50 期) 入学者数 13 名
 平成 25 年 10 月入学 進学 1.5 年コース(51 期) 入学者数 25 名

〈卒業生数〉 人数は本科生のみ。科目等履修生や聴講生は除く
 平成 25 年度の卒業生数は 17 名

なお、アジア系語学科の新規入学者はなし。

イ 専修学校の附帯教育及び別科

(ア) 個人を対象とした教育

一般社会人向けの教育、いわゆる生涯教育では、土曜コース語学講座（別科速成科昼間クラス）の他、少人数のニーズに応える特別講座や短期の語学講座等を実施した。また、初心者を対象にした語学の体験講座を企画し、三鷹ネットワーク大学の文化・教養講座の一つとして開講した。開講言語及び受講者数は以下の通り。

《土曜コース（別科速成科）》 受講人数は延人数
 初 級：アラビア語 計 22 名
 中・上級：インド語、韓国語、タイ語 計 49 名

《特別講座》 受講人数は延人数
 インドネシア語入門、アラビア語会話、アラビア語講読、アラビア語語彙、アラビア語文法復習、アラビア語書道、スワヒリ語入門、韓国語夜間講座、ベトナム語入門 計 130 名

《プライベートレッスン》 受講人数は延人数
 アラビア語 計 5 名

《三鷹ネットワーク大学における語学の体験講座》

韓国語他 全 5 言語（平成 25 年 4 月）

タイ語他 全 5 言語（平成 25 年 10 月）

（イ）法人・自治体・国の機関を対象とした教育

官公庁からの派遣語学研修生を対象としたクラスを中心にアジア・アフリカ語の語学研修を下記の通り行った。なお、平成 25 年度は国外（韓国）で行われる語学研修を初めて受託し、実施した。

《語学研修》

アラビア語 1 件、ウルドゥー語 2 件、韓国語 2 件（うち 1 件は韓国にて実施）

日本語 5 件、英語 6 件 以上 16 件を実施

ウ 在日外国人子弟に対する日本語教育及び学習支援

例年、夏休み期間を利用して三鷹市内在住の外国人子弟を対象に「日本語教育支援プログラム」を実施していたが、平成 25 年度は、前年度同様、新社屋建設工事に伴う事務所移転作業や既存施設の解体工事が小・中学校等の夏休み期間と重なったため、同プログラムの実施を見送った。

（2）学生寄宿舍の運営

専門学校アジア・アフリカ語学院に在籍する留学生の学生寮として、当法人所有施設「有朋館」（ゆうほうかん、全 20 室・基本入居可能人数 23 人）と「青雲公寓」（せいいうんこうぐう、全 4 室・基本入居可能人数 8 人）を使用し、運営した。平成 25 年度の年間稼働率は、有朋館が約 92%（別用途で使用した 2 室は含まず）、青雲公寓が約 78%（別用途で使用した 1 室は含まず）だった。このほか、近隣の民間賃貸物件も寄宿舍として利用した。

（3）その他

ア 市内の小中学生との交流活動

例年同様、近隣の市立小学校と日本語学科留学生が交流する活動を 2 回に分けて行った。平成 25 年度第 1 回目は、初めての試みとして、同校小学生らが専門学校アジア・アフリカ語学院を訪れ、アジア・アフリカ図書館や南部図書館の見学、留学生との質疑応答を行った（平成 25 年 11 月）。第 2 回目は同小学校が行う国際交流を体験する授業に同留学生が招かれ、互いの国の紹介やゲームなどを通して交流を深めた（平成 25 年 12 月）。

イ 三鷹国際交流フェスティバルや地域の行事への参加

三鷹国際交流協会主催の「三鷹国際交流フェスティバル」に日本語学科留学生の有志が参加。テントショップの運営や各種イベントの手伝いを通じて来場者やフェスティバル関係者らと交流した（平成 25 年 9 月）。また自治会などが主催する地域の夏祭りにも例年同様、同学科留学生の有志が参加。和太鼓や踊りなど日本の伝統文化を体験した（平成 25 年 7 月）。

ウ 日本語教育関連プログラム受講生の授業見学の受入れ

都下私立大学から、同大学日本語教育関連プログラムを受講している大学生の実習

の一環として専門学校アジア・アフリカ語学院日本語学科の授業を見学したいとの依頼があり、これを受入れた（平成 26 年 7 月、同 11 月）。

3 国際交流事業（人材交流活動）

(1) アジア・アフリカ世界と日本の人々を対象とした異文化体験の提供

中国において日本語を学習している若者を対象とした短期留学プログラムを立案し、実施した。

「中国広東省日本語学習者日本短期遊学プログラム」

参加者： 中国・広東省の大学または高校に在籍中の日本語学習者 計 6 名
実施期間： 平成 25 年 7 月 22 日～同年 8 月 20 日

(2) アジア・アフリカ世界と日本の教育者・技術者などを対象とした人材交流の実施 ならびにこれに係る職業紹介

平成 25 年度は実績なし。

4 国際協力事業

(1) 外国人技能実習生受入れ活動

平成 25 年 4 月 1 日付で、他団体が行っていた技能実習生受入れ業務を当法人が承継した。これに伴い、日常業務の拠点として東京都文京区西片に文京支所を設け、受入れ実習生の講習場所として茨城県美浦村の研修センターの運用を開始した。平成 26 年 3 月末時点における同業務の概況は以下の通り。

受入れ技能実習生数：317 名
実習実施機関数：5 社 7 機関
提携送出し機関数：5 機関（中国 4、ベトナム 1）

(2) 日本語教育普及活動

国外における日本語教育普及活動の一環として、日本語教育を行っている国外の教育機関に専門学校アジア・アフリカ語学院日本語学科の教員を派遣し、現地担当教員との交流、研修活動を行った。平成 25 年度の実施状況は以下の通り。

実施時期と派遣先：平成 25 年 11 月 中国・山東省威海市の教育センター
派遣教員数：日本語学科専任教員 1 名

その他の法人業務の状況

1 会員

新社屋竣工を契機に会員規程を一部改め、関連の規約や会員特典の整備を行った。これら新制度の運用は平成 26 年 4 月から開始する。なお、平成 26 年 3 月末現在の会員内訳は以下の通り。

普通会員（個人）	40 名	
特別会員（法人、団体）	1 社	
賛助会員（法人、団体）	5 社	技能実習生受入れ企業が対象

2 財団新社屋建設及び三鷹市立図書館開設に係る業務

(1) 財団新社屋建設工事

当初の計画通り、平成 25 年 8 月 20 日に建物が完成、同日引き渡された。建物完成後、引き続き既存建物の解体及び外構工事が行われ、同年 10 月 24 日に竣工引渡しとなった。新社屋は、地上 3 階建・鉄筋コンクリート造、延床面積は 1901.21 m²（PH 階は除く）である。2 階にアジア・アフリカ図書館を配し、2・3 階の 13 教室を専門学校アジア・アフリカ語学院の教室として使用している。

(2) 「三鷹市立南部図書館みんなみ」開館

「三鷹市立南部図書館（仮称）の開設及び運営に関するパートナーシップ協定」に基づき、当法人新社屋内に南部図書館（正式名称：三鷹市立南部図書館みんなみ）が開設された。平成 25 年 11 月 23 日には同図書館においてオープニングセレモニーと内覧会が開催され、翌 24 日から図書館業務が開始された。なお、同 23 日は同セレモニーに出席された市長をはじめとした市関係者の方々をアジア・アフリカ図書館にお招きし、当図書館のオープニングセレモニーと内覧会を開催した。

3 その他

平成 25 年 6 月 22 日開催の第 4 回評議員会において、任期となった理事及び監事の改選ならびに評議員の補欠選任を行った。

理事	再任 7 名	新任 3 名	退任 2 名	（平成 25 年度末の理事現在数 10 名）
監事	再任 2 名			（平成 25 年度末の監事現在数 2 名）
評議員	補欠選任 4 名			（平成 25 年度末の評議員現在数 14 名）

以上

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成25年度 事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」の該当なし。

以上